



上峰町立上峰中学校だより

ちんぜい

No.10

発行日：令和8年2月 20日

発行者（文責）：校長 永田康子

学校教育目標：心豊かに たくましく生きる生徒の育成 -自ら考え、判断し、行動する中学校生活を通して-
生徒会スローガン：オリジナル～全員の個性が輝く学校へ～

寒さの中にも、どこか春の気配を感じる頃となりました。2月は日数も少なく、毎年「あっという間」に過ぎていきます。しかし、この短い一か月の中に、子どもたちの大きな成長が凝縮されていることを、日々実感しています。

1・2年生は、学年のまとめの時期を迎え、学習面でも生活面でも「自分たちはもうすぐ一つ上の学年になる」という自覚が芽生えてきました。行事や日常の場面で、自分たちで考え、声をかけ合い、動こうとする姿が増えています。目に見える行動の変化の中に、この一年間の積み重ねを感じています。3年生にとっては、進路決定の大切な季節です。それぞれが自分の進む道と向き合い、不安や緊張を抱えながらも、一步一步前に進んでいます。結果だけでなく、ここまで努力を重ねてきた過程そのものが、今後の人生を支える力になると信じています。

一方で、インフルエンザをはじめとする感染症の流行も心配される時期です。十分な睡眠、栄養、手洗い・換気など、基本的な生活習慣が何よりの予防となります。心身の健康があってこそ、子どもたちは本来の力を発揮できます。ご家庭でも健康管理へのご協力をお願いいたします。

2年生「百人一首大会」に見る学びの力

1月30日（金）の総合的な学習の時間に、2年生の「百人一首大会」を実施しました。準備期間も含め、子どもたちは約1か月にわたりこの行事に取り組んできました。百人一首大会と聞くと、日本文化に親しむ行事、あるいはクラス対抗のイベントという印象をもたれるかもしれませんが、本校が大切にしているのは、勝ち負けそのものではありません。この取組の本質は、「集団の中で自分はどう関わるのか」「みんなでどう成功させるのか」を考え続ける過程にあります。大会は実行委員会形式で、生徒たちが中心となって運営しました。グループ対抗で行われましたが、百人一首が得意な生徒もいれば、そうでない生徒もいます。その中で子どもたちは、「誰が何枚取れるか」ではなく、「このメンバーでどうすれば力を発揮できるか」「どうすれば全員が参加している実感をもてるか」を話し合いながら、作戦や役割を決めていきました。また、審判も生徒自身が担当しました。友達同士であっても、公平に判断する責任を引き受けることは簡単なことではありません。ルールを理解し、公平さを守る姿勢は、まさに社会で求められる力です。準備期間中には、意見の違いや温度差もあったようです。思うように進まないこともあったはずですが、しかし、そうした経験を通して子どもたちは、「自分は集団の中で何を担うのか」「行事を成功させるとはどういうことか」を考え続けてきました。

この百人一首大会で育まれたのは、「協働する力」「役割を引き受ける力」「公平さや責任を考える力」です。これは単なる行事の成功にとどまらず、3年生での社会参画の学びへとつながっていきます。

来月には1年生の百人一首大会も予定されています。1年生の成長が見られることを楽しみにしているところです。



実行委員会が運営



全員が真剣！



審判も自分たちで

生徒による起案書の取組について

本校では、生徒が学校生活の中で「もっとこうした方がよいのではないか」と感じたことについて、自分たちで考え、話し合い、起案書という形で提案する取組を進めています。

これまで子どもたちは、学校の決まりや慣習について「そういうものだから」と受け止めることが少なくありませんでした。しかし最近では、「このルールは何のためにあるのだろう」「よりよい方法はないだろうか」「みんなにとって公平だろうか」といった問いを自ら立て、具体的な改善案をまとめ、根拠を示しながら提案する姿が見られるようになってきました。これは学校への不満や反発ではなく、「自分たちの学校をよりよくしたい」という前向きな思いの表れです。社会に出れば、与えられた環境をただ受け入れるだけでなく、課題に気づき、対話を通して改善していく力が求められます。起案書づくりは、その力を育てる大切な学びの機会です。

感情的に主張するのではなく、「なぜそう思うのか」「誰にどんな影響があるのか」を考え、責任をもって提案する姿勢を大切にしています。子どもたちは確実に、考える力、伝える力、そして社会に参画する力を伸ばしています。

花いっぱいボランティア活動

3年生を中心に、花苗が植えられています。まだまだ寒い朝の時間に、受験がひと段落した合間を縫って活動する姿に頼もしさを感じています。3年生の呼びかけに賛同した2年生と1年生も一緒に活動する姿があり、しっかり受け継がれていっていることに感動しています。今年度は、1年間を通して主体的な発想で花壇の世話をしている生徒たちが少なくありませんでした。おかげで、学校は明るく元気な雰囲気になりました。現在、パンジーやジュリアンなどの花苗が植えられています。花壇の世話は、ただ花を植えるだけではなく、命を大切に作る心や、学校を自分たちの手でよりよくしていこうとする思いを育てる活動でもあります。水やりや草取りを続ける中で、責任感や仲間と協力する力も自然と身につけていきます。子どもたちが心を込めて育てた花が、学校を訪れる皆様の心も明るくしてくれることを願っています。学校においでの際は、是非生徒たちが心を込めて植えた花をめでてください。



気づいたら行動

校長室前の廊下に、季節のしつらえが飾られています。現在はお雛様です。そこにチューリップが活けられた花瓶がありました。花の重みで花瓶が倒れ、水が廊下にこぼれていました。それに気づいた3年生2名が、すぐに雑巾をもってきてきれいに拭きあげてくれました。彼らの「気づいたらすぐ行動」がとても自然で、お礼を言うと、本人たちはいたって当たり前のことをしているだけという雰囲気でした。このような素晴らしい生徒たちが本校を巣立ち、これからますます活躍の場を広げていくのかと嬉しく思いました。

誰かに言われたからではなく、自分で気づき、自分で動く姿は、これから社会に出ていく上でとても大切な力です。特別なことをしているというより、「当たり前のこと」として自然に行動できるところに成長を感じました。こうした小さな積み重ねが、温かく安心できる学校の雰囲気をつくっています。ぜひ、ご家庭でもお子様のこうした姿を認め、励ましていただければ幸いです。